

吉里吉里ギャラリー開催

"Kirikiri Gallery" Was Held

-大槌 PJ のアツい夏-

-A Hot Summer in Otsuchi-



大槌 PJ では、8月22日（木）から25日（日）にかけて、吉里吉里地区にて「吉里吉里ギャラリー」を開催しました。期間中には、吉里吉里祭りも開催され、熱く爽りある4日間となりました。その様子をM2 萩原、M1 瀬川より報告します。

吉里吉里ギャラリー開催の経緯

text_hagiwara

大槌町吉里吉里地区で毎年8月に行われる例大祭に合わせ、浸水区域内で倒壊せずに残った旧角文商店をお借りし、吉里吉里ギャラリーを開催しました。ギャラリー内では、昭和三陸津波からの復興の様子を伝える資料や東日本大震災前の懐かしいまちの写真の展示、まちの歴史や文化に詳しい地元の方よりお話を伺うギャラリートークなどの企画を行いました。

一昨年度より続けてきた吉里吉里地区での調査により、多くの資料やまちの思い出が集まってきたこともあり、大槌PJチー

ムでは、これまでの成果を整理し、協力していただいた地域に還元していく必要性を感じていました。そこで、これらの成果を地域の方々がまちの将来像を考えるきっかけとしていただけないかと考え、今回のギャラリー開催に至りました。

期間中、吉里吉里の復興に向け、活動を行う地元若手事業者の方々とワークショップも行いました。このように調査を行うだけでなく、その成果を活かしながら地域の方々とともに吉里吉里や大槌町のこれからについて考え、行動していく機会を増やしていくことができればと思います。そして、今回の吉里吉里ギャラリーの開催がその大きな一歩となれば幸いです。



▲旧角文商店を会場に行った吉里吉里ギャラリー



▲郷土芸能について伺うギャラリートーク



▲地元若手の皆さんとWS後の打ち上げで記念撮影

吉里吉里の底力を実感した充実の4日間

text_segawa

今まで大槌にヒアリングを中心とした現地調査で何度か足を運びましたが、今回の吉里吉里ギャラリーを終え、私自身、初めて現地の人々へ何かしらの発信ができたように思います。短い開催期間でしたが、連日多くの住民の方々にお越しいただき、昔の吉里吉里について地図や写真を見て思い出話を交えながら伺ったり、写真を見て懐かしむ様子を伺えたりと、充実した4日間でした。10代から80代までの幅広い年齢層の人々の吉里吉里と復興に対する思いを知り、今後のこの場所のあり方について以前に増してさらに深く考えるきっかけとなりました。

また、期間中に8月24日に宵宮、25日に鹿子踊り・大神楽・虎舞の3つの郷土芸能を披露するお祭りが開催されました。初めてお祭りを間近で拝見することができ、子供から高齢者まで今まで吉里吉里で見たことがない数の住民がお祭りに参加していて、吉里吉里の住民を1年の内のどの日よりも一丸とさせる圧倒的な郷土芸能の強さと美しさを体感しました。

この場をお借りして、会場を提供していただいた角地敬子さん、写真と資料を提供していただいた藤本俊明さん、ご協力していただいた吉里吉里のみなさまに深く感謝申し上げます。



▲例大祭で奉納された躍動感溢れる虎舞

"留学生コーナー第24弾!"

An Essay by International Student Vol.24

My Favorite Town in Japan –御茶ノ水のいろいろ–

D2 李薈

私が東京に来たばかりの頃、一つの雑誌に出会いました。「東京人」という雑誌で、東京の風物しか書かれておらず、月に一冊という頻度にも驚きました。その後、東京のあちこちを探り、この人ごみに紛れるような混雑した都市空間を好きになってしまいました。東京なら工夫すれば月に一冊の雑誌が出来ることを納得しました。

そこで、私が東京で一番好きな町といえば、それが御茶ノ水ではないか、と意識しました。初めて御茶ノ水に行ったきっかけはレモン画翠への買いだしでした。それから何も買わなくてもあの店に寄ってその「イロドリ」を見物します。また、御茶ノ水橋に立って駅の放送音を聞きながら中央総武線を見送り、聖橋の方へ見渡して丸の内線がトンネルに出たり入ったりするところを楽しむことができます。

JR 御茶ノ水駅脇を流れる神田川には舟が通るようです。時々舟に乗って電車に向かって手を振る元気なおばさんの姿が見えます。神田川の両側には東洋と西洋、それぞれの聖堂もあります。秋に湯島聖堂に行くと、楷の木から眉のような葉がいっぱい



▲御茶ノ水橋から聖橋へ

落ちます。黄色い世界はまるで故国の秋のようです。一方、ニコライ堂は私は写真を撮ただけで通り過ぎてしまいました。珍しい正教会なので、今度ちゃんとして敬意をもって見学しようと思います。



▲孔子像と楷の木

D3 森さん博論発表に臨む

D3 Mori Faced the Final Defense of Doctor's Thesis



8月8日(木)に行われた博士論文発表を終えたD3 森朋子さんから、今のお気持ちを伺いました。

「大字を基礎とする集落の保全手法に関する研究

–五箇山における相倉・菅沼集落と周辺集落群が持つ特性に着目して–」 森 朋子

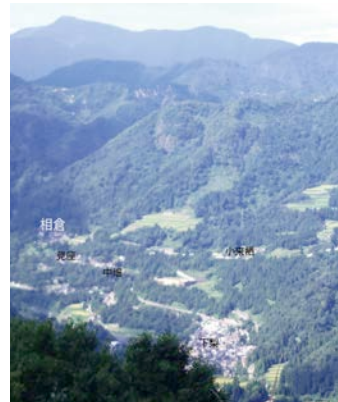
2010年5月、西村先生に初めてお会いした日は始まりで、不動産開発の仕事から辞め、新たな世界に飛び込んだ3年間でした。しかし、開発に軸を置いていた私にとって、保存と開発が一体であることが、すんなり腑に落ちたのも事実です。保存は、決して時を止めることではなく、未来に向けた創造であること。これが、本研究を通して、一番に体得した知見であるように思います。そ

して、中井先生や窪田先生にご指摘頂いた生活の視点の欠落は、空間にある「意図」に夢中になってしまった結果のように思います。今後、私の大きな課題にします。

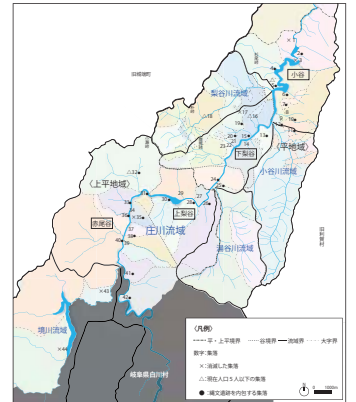
最後に、西村先生、窪田先生、助教の先生方、研究室のみなさん、五十嵐さん、ありがとうございました。特に、中島助教には大変お世話になりました。



▲審査の先生方と議論する森さん(写真左)



▲五箇山における相倉集落と周辺集落



▲研究の対象地、五箇山の44集落群

Information

8・9月の予定

8月30日	日本建築学会大会 @ 北海道大
-9月1日	(8月31日に研究室懇親会を予定)
9月1日-3日	大槌PJ 奥尻島視察
9月8日-10日	清水PJ 現地訪問

編集後記

萩原 拓也

夏の甲子園は前橋育英の優勝で幕を閉じ、今年も真紅の大優勝旗が東北の地にたどり着くことはありませんでした。しかし、準決勝で惜しくも敗れた岩手代表花巻東の健闘を称える声は訪問中の吉里吉里のあちこちで聞かれました。私が高校球児だったあの夏、県大会で敗れ、佑ちゃんとマー君の投げ合いを予備校横のお好み焼き屋で見ていたことを覚えています。6年が経ち、各々の境遇は異なりますが、この夏、吉里吉里での経験を、あの夏のそれと同様、今後活かしていけたらと思います。